

外国語科学習指導案

〇〇高等学校
指導者

1. 履修単位 4単位
2. 実施日時 令和3年11月24日(木) 第4時限
3. 学 級 1年6組(41名)
4. 使用教科書 CROWN English Communication I (三省堂)
5. 単 元 名 Lesson 6 Roots & Shoots
6. 単元設定の理由

○題材観

本単元は、動物行動学者の Jane Goodall に対して Kenji がインタビューするという形式により、彼女の動物に対する接し方や、環境問題についての考えや取組が紹介されている。インタビューされる側の発話は通常の発話よりも量が多くなることから筋道立てて話す傾向があり、今回のインタビュー記事も、書きことばの様相を呈している。Jane は「共生」や「絶滅危惧種」に関する自分の意見がある程度表明しており、読み手である生徒たちも比較的容易に自分自身の意見を持つことができる。本課は自分の意見を持ち、考えなどを適切に伝える能力を伸ばすために適した題材である。

○指導観

本単元は、本文の内容理解をもとに、論理的に自分の考えを構築して表現するのに適した内容となっている。そこで、「CAN-DOリスト」の「書くこと①, ③」に関する指導と位置づけ、論理的に自分の考えを伝えるために必要な構成や表現方法に焦点を当てた指導を行う。日本語とは違う英語独特の文章構成や、論理展開の方法などを整理するなどして、知識や言語材料を十分に持たせてからライティングに取り組みせ、主観的な理由ではなく、客観的な理由とともに自分の意見を述べる言語活動を目指したい。

7. 単元の主な目標

- (1) 「共生」や「絶滅危惧種の保護」について興味を持ち、自分の考えを積極的に伝える。
- (2) インタビュー記事の内容を口頭で要約するとともに、「共生」や「絶滅危惧種の保護」が必要かどうかについての自分の意見を、客観的な理由とともに書く。
「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標との関連→「書くこと①, ③」
- (3) 「共生」や「絶滅危惧種の保護」についての他者の意見を読んだり聞いたりして概要や要点を把握する。
- (4) 分詞構文、形式主語、同格などの文法を用いた文の構造と意味を理解する。

8. 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
「共生」や「絶滅危惧種の保護」について興味を持ち、自分の考えを積極的に伝えようとしている。	①インタビュー記事の内容を口頭で要約することができる。 ②「共生」や「絶滅危惧種の保護」が必要かどうかについての自分の意見を、客観的な理由とともに書くことができる。	「共生」や「絶滅危惧種の保護」についての他者の意見を読んだり聞いたりして概要や要点を把握することができる。	分詞構文、形式主語、同格などの文法を用いた文の構造と意味を理解している。

9. 指導と評価の計画

時間	ねらい	本課の評価規準	評価方法
1	本課で学習する文法事項について構造と意味を理解する。	エ	後日ペーパーテスト
2	Part 1, 2 を聞いたり読んだりして、概要や要点を把握し、内容を口頭で要約する。	イの① ウ	パフォーマンステスト 後日ペーパーテスト
3	Part 3, 4 を聞いたり読んだりして、概要や要点を把握し、内容を口頭で要約する。	イの① ウ	パフォーマンステスト 後日ペーパーテスト
4	「共生」や「絶滅危惧種の保護」について、自分の意見を書く。	イの②	活動の観察 ワークシート
5	「共生」や「絶滅危惧種の保護」について、自分の主張を強めるために調べ学習を行う。	ア	活動の観察
⑥	「共生」や「絶滅危惧種の保護」についての他者の意見の概要や要点を把握した後、改善方法についてグループで話し合い、客観的な理由を挙げて、より説得力のある意見にする。	ア イの②	活動の観察 ワークシート
後日	<ペーパーテスト> ◇分詞構文、形式主語、同格などの文法を用いた文の構造と意味についての理解をみる問題。 ◇インタビュー記事の内容についての理解をみる問題。	エ	ペーパーテスト

○は本時

10. 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（第1学年）

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	評価	学習到達目標	評価	学習到達目標	評価	学習到達目標	評価
①教科書で習った話題について、キーワードを頼りに、内容を大まかに説明することができる。(発表)	コミュ英I ・ペアワーク ・相互評価 ・インタビューテスト	①身近な話題に関して、簡単な理由を示しながら、賛成・反対の意見を書くことができる。	コミュ英I ・筆記試験 ・ポートフォリオ評価	① ALT によるインタビューテストなどで、日常生活や身近な話題に関する質問の内容を60%以上理解することができる。	コミュ英I ・インタビューテスト ・自己評価	①まとまりのある説明、評論、物語、随筆など読み、流れを把握しながら概要や要点を理解することができる。	コミュ英I ・音読テスト ・速読テスト
②身近な話題について、簡単な表現を用いて、個人的な意見を述べたり、情報を交換することができる。(やりとり)	英語表現I ・ペアワーク ・相互評価	②身近な絵や写真などについて、英語で描写することができる。	英語表現I ・筆記試験 ・ポートフォリオ評価	②ゆっくり話されたら、自分の知らない外国の行事や習慣について説明を理解することができる。	英語表現I ・リスニングテスト	②簡単な英語で書かれたまとまりのある説明や物語を1分間に70語の速さで読み、内容をほぼ理解することができる。	英語表現I ・筆記試験
		③与えられた文章の内容について、簡単な単語や文法を使って自分の感想や意見を書くことができる。		③授業で聞く天気予報や公共の場でのアナウンスを、2度聞けば、60%以上理解できる。		③すでに習った英文を、発音やリズム、イントネーションに注意しながら音読することができる。	

1 1. 本時（第6時）の指導過程

(1) 目標

「共生」や「絶滅危惧種の保護」についての他者の意見の概要や要点を把握した後、改善方法についてグループで話し合い、客観的な理由を挙げて、より説得力のある意見にする。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法		
2分	1 授業内容を知る。	・明るい雰囲気づくりに努める。	ア	活動の 観察		
6分	2 口頭要約を再現し、内容を復習する。	・キーワードを示し、再現の手助けをする。				
5分	3 示された例を元にして、話し合いのテーマや目標を理解する。	・話し合う内容を、示された例が①日本語とは違う英語独特の文章構成や、論理展開の方法になっているか、②読者を強く説得させる理由になっているか、に絞らせる。 ・全員が発言し、より説得力のある理由を出すという話し合いの目標を徹底させる。				
3分	4 話し合いに必要な言語材料や表現を理解する。	・これまでに学習した話し合いに必要な表現を生徒から引き出す。				
8分	5 グループで話し合い、MetaMoJi Classroomのワークシートに入力する。	・話し合いが不活発なグループには、質問を投げかけ発話のきっかけを作る。				
5分	6 代表で数名が発表する。	・肯定的なフィードバックを与えるようにし、良かった点について具体的に言及する。				
15分	7 今回の授業のポイントを意識して、すでに自分が書いたものを改善する。	・ポイントを分かりやすく整理し、スムーズに書き直しができるようにする。			イ②	ワーク シート
3分	8 前回書いたものと、今回書き直したものを比較する。	・いくつか分かりやすく改善したものを示し、良かった点について言及する。				
3分	9 自己評価をする。	・MetaMoJi Classroomを用い、目標達成度を自己評価させる。				

「十分満足できる」と判断される状況	自分の意見をきちんと表現した上で、他の生徒の意見に対して批判的に問いを発し、より説得力のある理由を挙げようとしている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	改善するポイントを絞らせる。

